（毎週月曜日刊）　（本紙六頁）　（毎日曜日休刊）（定價金三錢）

時事新報

第千二百九十五號
明治十九年六月七日　月曜日
癸丑戊午六月六日　（戊戌）
日出午前四時四十五分　日入午後七時二十分
月出午前九時二十三分　月入午後十一時十三分
滿潮午前八時十八分　滿潮午後九時十八分
（西暦一千八百八十六年）

社告

○時事新報豫約御購讀被成下候ニハ新報代價並ニ郵便料必ズ前金ヲ御拂入被成下度候又郵金相切レ候ハハ其日限リ新報ノ送達相見合セ候ヲ新報代價並ニ郵便料トシテ御送附相成候金員當方ニテ正ニ落手仕候節其都度書面ヲ以テ御通知ハ不申上其代リニ延日御越送申上候新報ノ需封表面御名前ノ脇ニ（何月何日）ト記入仕置候間御確可被成下候是ハ此日迄ノ新報代價並ニ郵便料トモ御拂濟相成居ル ニ付此日マデハ新報送達仕候ト申ス本ニ候

○郵便爲替又ハ銀行爲換等ヲ以テ時事新報代價御拂入レ被成下候節當方ノ名宛ハ（時事新報社）ト致シ郵便爲換ナレバ（東京麹町區本局）ニテ受取ルベキ樣御取組被成下度候

○御住所ノ御都合ニテ郵便爲換又ハ銀行爲換等御取組被成下候儀御不便ノ御方ニ限リ時事新報代價並ニ郵便料共一錢又ハ二錢ノ郵便切手ニテ御拂入レ被成下候テ苦レカラズ候

○時事新報豫約購讀ノ諸君ニテ住所御移轉等ノタメ新規配達先ヲ御取替ヘ被成度節ハ新舊兩方ノ所書ヲ併テ御通知被成下度候

○時事新報の見本御入用の御方は其旨東京日本橋區通三丁目十一番地時事新報社又は大坂東區高麗橋通五丁目卅四番地時事新報社出張所の内へ御申越被成下度左候へば代價並送料を申受けず右見本御送り可申上候

時事新報

華族は不景氣の最も濃厚なる處に住を可し

人の世に在るや其身分位地職業各相異なるが故に一國の公より云へば共に其喜憂と與ふも可き事にても一個人の私ゐ立入れば各其利害を異にするの情あき能とす例へば戰爭は凶事なれども爲めに思ひ寄らざる大利を得て悅び躍りなる兌商人もあらん病れ流行をるは社會れ大損害あれども爲めに立身出世をる醫師もあらん火災罹害の慘毒は誠に憐なるに相違なしと雖ども大工左官材木商等は爲めに大に稼業の忙はしと兌と悅ばざると得ず蓋し人間の公義ゐ於て社會の不幸を見て之を喜ぶと云ふにはあらねど身分位地職業の異なるゐ隨て私情自から其利害と異にするは是非なる兌次第なり此時に當り其私の利の爲めゐ世の不幸を助長をるが如兌之素より人の爲を可き所ゐ非ざれども此不幸が偶然ゐも己れゐ利するが如きとゐちば所謂天與取らずんば後必らず殃ありとの訓と奉じて穩當に其利ゐ當ふは士人の所爲とまて毫も愧づる所なのる可き

數年以來世上不景氣を嘆々す、我輩と以く之を見るゐ此不景氣に就ても亦各其利害を異にするものゐる可しと思はる、元來不景氣と申すと供給餘ありて需要足らざるの現象なり職工物を製して之を庫中に堆積をれども人來て之を求むるものなし即ち工の不景氣あり、商人物を仕入れて善き價を求むれども之れに應ぜるものゐ無即ち商の不景氣あり、農家い耕作物の低價ゐるを嘆じ役夫は其勞役と賣ふものゐきを訴ふ、此等嘆息愁訴の聲は所謂不景氣沙汰にして其實相を云へば天工人造物の供給は充分なれども世間の需要力い萎縮して此供給と吸収をる能いずして物れ價の下落することなり物價下落すれば物を製作販賣するものは損害を恐きて其業を収縮せざると得ず是に於て製造賣買の區域と狹め候るが如く睡るが如く愁ふるが如く訴ふるが如く社會は恰も喪に居るの家ゐ似たり即ち數年以來我國不景氣の容体なれども此不景氣の中ゐ於て最も都合よきものは何人なるやと尋るに有爲活潑新ゐ身を立て金を儲けんとするものは世間多事にして工業も振起し商賣も繁昌ゐ金融甚ゐ滑ゐる其中に在て始めて大に志と得るものなれば今の不景氣い此種の人の腦に非ず唯この時に當て御々たる可き者は身既に立ち家既に成り祖先傳來の財産ゐ依賴ゐて閑に此世と渡るの人ゐるのみ蓋そのの道理ゐるべき不景氣の世界は之と譬へば排氣鐘れ如し平常空氣中に在て能く鳴き能く動く動物は一旦排氣鐘中に入きば忽ち眩暈絶倒をれども蛇又は蚯蚓の如きい常に閑生活に慣るゝが爲めに容易に絶息をるとなゐ左れば彼の華族の如きは生活の最も閑靜なる者にして平生世の浮沈と相關すること薄く世間れ景氣盛なきばとて之に由て利をる所ゐ兌其代りに不景氣に逢ふとも會て不利を感することゐ無きゐと感せざるのみならず物價下落、公債證書賠償等の現象い却て其利益なりと云ざるゐ得ず即ち今の不景氣の時い世の爲めには不幸ゐれども華族社會は偶然ゐも便利と蒙るの運に際したるものゐきを華族諸君の爲めに謀りて遠慮あく此の時の利と収むるの覺悟ろ肝要ならんと信するゐり

華族社會は唯有る金と消費するの一方ゐ傾くものゐれば世間不景氣にして物價下落すれば金の効力ます〳〵顯はれて世間甚き易きの利ゐり即ち不景氣の今日は都て便利なる時節ゐれども尚ほ細ゐ日本國中と見渡せば場所ゐ由りて不景氣の濃淡厚薄れ差あるが如き例へば三府又い開港場の如きい自から金融の滑なるゐりて需要れ物品勞働の賃錢等思ひの外ゐ低時の價格と保ち不景氣中ゐも活動の勢ゐるが故に華族のために謀りて最上れ安宅と云ふ可らず之に反して各地方の現況ゐ賣に不景氣の最上ゐして餓孚途に横はるまでれ惨狀を呈し金錢は恰も亞剌比亞沙漠の水れ如く其價の貴くまて人れ之が爲に働き、物の之がために集まること都會の地と同日れ談ゐ為ゐざれば無き金と儲けんとするにはあらずして有る金を消費をるの地位に立つ者い此沙漠と擇んで住居を定め一滴の水ゐよりも之に灌ぐの工風こそ智者の事なる可し即ち不景氣ゐ濃厚なる處を擇ぶとは此邊の意味ゐり我輩は我國の殖産改良の爲め、華族諸君一身の便利れ爲め其領地に居住するの得策なるを勸告せゐが今又華族諸君と消費者と見て自家經濟の爲めに謀りても其舊領歸住は萬全の策にして毛頭躊躇するゐと要せざるゐり

雑報

○佛國と安南　佛國駐在總官ポール　ベル氏が本國より東京ゐ來り河内に駐在をる間に安南國王は其叔父某を大使と為て國書並に象牙其他の土宜を齎らし之を來迎せし英安南の大臣卿司法卿及びクンホア州の知事も同大使ゐ贈ひ河内ゐ來り四月廿七日同地の政廳にて國書並ゐ贈物を駐在總官に呈し同日大使の一行い駐在總官と會食したる後更に饗宴と開きて同地の文武官員及び民の重立さる人々を招き翌二十八日ゐは駐在總官の命を以て大使の來るを祝する爲に市中に佛國及安南の國旗を掲ゐ夜ゐ入りては市中一般に球燈を掲げ點燈行列ゐどの催ゐり其翌日と又河内城中にて兵隊の操閲ゐり次れ日には駐在總官が大使の一行とシチーと云へる佛殿に請じて之と饗應し安南の優人と召びて踊樂と奏せしめ河内ゐて有名ゐる妓女數名も出でて其の興を助け又其次の日ゐい大使が同所にて駐在官を饗應ゐたる由此等の爲兌同府の市民も大に安堵の思と爲ゐたりと云ふ　斯くてポール　ベル氏は五月三日夫人及び隨員數名と隨へ安南大使の一行と共に河内を發ゐ船ゐて安南の國都順化府ゐ到り安南國王ゐ見えて迎接の爲兌ゐ大使と指立てられたる厚意と謝し且つ佛國政府が安南東京れ爲兌を謀るの切ゐる旨と告げ其より氏と專ら國中の騒亂を鎮定し人心を安堵せしむるの方策と考慮中の由又安南國王もベル氏と同樣の見込ゐて今度斷然古來の陋習と破り自ら都城を去てゲーアン、タンホア二州の如き最も騒々しき地方と巡回せんとと思立ちたる由なるが安南の人民は深く王家と尊び且つ之と親愛すると以て國王親ら巡回ゐて土人と鎮撫するときは容易ゐ騒擾の迹と絶つことを得べしと云ふ

○臺灣の鐵道　劉銘傳氏は今度臺灣港の新艙より海口まで鐵道と設けて石炭と運送するの用に供ゐ然る後艦船（地名）より憲尾迄の間にも一條の鐵道と敷設すべき見込にて此鐵道竣功の上は外國行の船舶と還尾より直ちゐ臺灣の貨物を積出すと得必ずしも厦門に立寄ると要せざるとことゐるべしと又同氏は近て臺灣の北部より南部に至る長鐵道と起すの目論見ゐりて前に同島在留の英國領事さりし某氏が既に劉氏と鐵道敷設引受れ約束を爲せし由近着の中報に見ゐたり

○東京地形變遷　大鳥圭介氏著武藏幷東京古今沿革は武藏近傍數國の形勢より東京灘海沿河れ變遷及武藏幷東京地形沿革等を纏述し事甚ず明白に考て載せて東京地學協會報告第六號ゐあり今其東京地形沿革の部分を抄出すれば左の如し

天正十八年德川氏入城後直ニ行德ヨリ鹽ノ運路ヲ開キ通船ニ便ニス是レ今深川高橋通リノ運河ナリ此水路ハ遊井ニテ海ニ出デ次ニ今ノ中川口ヲ濟リ利根川ニ達セシナリ之ヲ德川氏土功ノ第一着トス文祿三年千住大橋ヲ架ス慶長八年神田山（今ノ駿河臺ノ東南ニアリ）ヲ崩シ南ノ入海四方三十餘町ヲ埋メ立テ在家ヲ建ツ（按ズルニ是レ築地木挽町ノ邊ノ事ナルベシ）○大城ノ修築ハ慶長十一年三月ニ起リ九月ニ成ル○同十四年品川海道（元品川村ハ今ノ地ヨリモ西南ナル高處ニアリシナリ）筋西山際ヨリ海端迄三十間ノ道幅ヲ廣ム○元和二年神田川ヲ疏通ス○寛永四年寛永寺ヲ建ツ○寛永年代鉄砲洲向千濱百間四方ノ地ヲ攝州佃村ノ漁人ヘ與ヘ之ヲ埋立テ漁戸ヲ立テ佃島ト稱ス○四代擁立水戸二年神田上水玉川上水ヲ通ス（千川上水ハ安永九年ニ成リ天明七年ニ止ム）○萬治二年兩橋即チ大橋ヲ作ル本所派川ノ地ヲ開拓ス同年仙臺侯ニ命シ牛込ヨリ御茶水ノ筋ヲ堀割リ大川ニ通セシメ其土ヲ以テ小石川（元小石川小川町飯田町邊ハ入江ニテ沼澤也）小日向邊ニ新地ヲ築成ス（神田川ト稱スルハ多摩郡井ノ頭ノ池ヨリ出ル一派ニ並ニ其近傍ヨリ流出ル諸小流落合村ニテ合シ高田目白臺ヲ經テ江戸川ト為リ夫ヨリ飯田町ノ下ヲ環リ今ノ常盤橋ノ下ニ出テ日本橋ノ方ヘ流レ落チシモノナリ）承應年間ニ工事ヲ興シ此水ヲ以テ神田上水ト為ス○御茶水、掘割ノ以前已ニ水戸邸ノ建築アリ堤ヲ作リ神田川ノ支流ヲ淺草川ニ通シケルヲ更ニ仙臺侯ヲシテ鑿廣ケシメ通船ニ便セシメ神田川ト稱セシトノ說皆ニ近シト思ハル）寛文六年芝金杉海手百餘間ノ地ヲ網干場トナシ新網町ト名ヅク○延寶三年芝金杉新堀ヲ鑿開ス○深川ノ地ハ元永代島ト稱シ海中ニ築出シタル一小嶋ニテ八幡宮ヲ安置シリシヲ德川氏入ニヨリ此名ヲ命シ南ノ地ハ誠ニ狹シノミナリ鑿堀國橋成ル○四代東ヲ下總ト定メ六年新大橋ヲ架ニ假ヒ新大橋ト名ヅセシヲ以テ名ヅ之ニ因リ此ニ配チ集メ深川海手坪成ルトアレバ此前後ニ成リシ住居スル地トナ明和二年平井治キ掘田トナス因戸村ニ積キ古キ山ヲ崩シテ下谷省邊ノ新地築立ナラザルモノアリ

○高松通信　六當地のコレラ病八名に下らず大亦西讃村れ如通と遮斷し居いへり本年は氣ぎ難き程の暑気く老人抔い綿入て一日として定恰も梅雨の候に甚しクりしが東かゝる不氣候害せられ其他は殊ゐ惡疫は勢ゐも不安の思を

○製圖參考寫眞　今度其筋より獨四月中來着せり浅草の寫眞師六間半の足溜ゝ三枚紙元に撮影て品川沖及赤坂監獄署内の足場枚續きに撮影本月中一應納今回の譯は島田將軍自著米國傳略並に一劍先芭蕉

○米國傳說　ト題シ一冊の高かりし判の高かりし場ハ佛人オチ像觀たるゐ聽特に平易解ゐ見執りて生涯れ間合群ゐり原著はーストレーキ氏

○修羅浮世錦繪　ものなるが方したり定價金は爲兌ゐよし